

令和3年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りに貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。 (1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。 (2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。 (3) すべての教育活動の実践をととして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。		年度当初、1学期始業式・入学式は無事に終えたものの、以降は約1ヶ月半に渡って新型コロナウイルス感染予防のための臨時休校が続いた。その間、授業の代替えとして、自宅で実施できる課題等が各教科から生徒に課せられた。今年度末に校内のICT環境の整備が進み、今後は遠隔授業等を含めたその有効活用が課題となる。 臨時休校後については、感染予防のため行事等が大幅に縮小・変更された。本校の特色である八幡支援学校との交流及び共同学習についても、遠隔交流等が中心となり、内容の大幅な変更を余儀なくされた。当面は、両校のスクールパートナーシップを更に深めていくためには、工夫を凝らしての実施が必須となる。 生徒アンケートでも指摘される「学校全体に学習する雰囲気欠けている」という状況の改善が積年の課題である。『あたり前のことをあたり前にする』という生活意識の習慣化に自覚的に取り組みながら、生徒一人ひとりが、夢と希望を持って、自らを高め、自己の将来を切り拓くための知識、技能、そして、自ら課題を解決する力を養うことが望まれる。それが地元中学生から選ばれる魅力ある学校づくりにつながるであろう。		南北両キャンパスそれぞれの個性を生かしながら、あらゆる教育活動をおとして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。 (1) ICT機器活用を基軸とした学習形態のUD化推進と、学習評価に関する研究の推進 (2) 保護者・地域との連携による基本的生活習慣の確立及び社会的自立心の育成 (3) 感染症対策をはじめとする安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実 (4) 就修学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実 (5) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化 (6) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進・研究 (7) 普通科と専門学科それぞれの教育内容改善に向けた検討と方策の具体化	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標		ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題
				重点目標の評価指標					方策の評価指標				
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたかとみなすか。				重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間	年度末	
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上を図る	研修受講数	3		センター研修の積極的な受講を促し、受講する機会を増やす。 授業見学の充実	受講数 授業見学に参加する教員数	前年度比増 延べ100人以上	3	3	校内研修については、感染防止の観点から全体実施を回避し、学科毎で実施するなど工夫を凝らした。また、授業見学については、年間を通じて延べ250名を超えるものとなった。
	組織運営	ICTの活用	ICTの効果的な活用の研究及び実践	研究・研修、実践回数	効果検証	3		ICTを活用した学校運営、組織運営 効果的なICTの活用の研究を進め、授業改善に活かす。	新領域の研究と実践数 ICTを活用した公開授業数	5企画以上 延べ30回以上	3	3	始業式・終業式をオンラインで南北キャンパス合同で実施した。また、部長会議・職員会議についても昨年度に引き続き南北キャンパス間をオンラインで実施した。ICTを活用した公開授業については、延べ30回を超えるなど、積極的にその導入に努めている。
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	学校満足度アンケート「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率	75%	3		校内のUD化を推進する 効果的なUD学習を実施する	企画実施回数 学習教材を更新する	3回以上 5回以上	2	3	今年度の学校満足度アンケートで「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率が94%となった。目標の75%や昨年度の79%を上回ることができた。今年度は特に学年とUD学習の教材について検討を行い、より良い内容となった。今後も、UD学習等を通じて生徒の人権感覚を磨いていきたい。校内のUD化に関しては、2棟や4棟に案内掲示を作成した。生徒や来校者に校内の教室の場所がわかりやすくなった。
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力を効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	前年度の志願者数を超えている	2		学校ホームページの充実 本校の魅力を向上させる掲示物等を作成する 学校説明会の開催	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 掲示物等の作成 参加者のアンケート肯定率	120回以上 3回以上 90%	3	3	学校ホームページに関しては、2月下旬時点で156回更新できている。今後も本校の魅力を発信していければと思う。本校の魅力を向上させる掲示物等は、あまり実施できなかった。学校説明会における参加者の肯定率は、95.7%と高い評価をいただいた。より魅力ある説明会になるようにしていきたい。前期選抜の志願者数は、前年度の志願者数の約70%と大幅に志願者が減っている。志願者数の減少の原因をしっかりと分析し、来年度の志願者数の増加を図っていく必要がある。
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減	3		調査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する 校務システムへの入力及び欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 注意喚起及び状況報告の実施回数	昨年度比減 70%以上 週1回	3	3	追認認定率は基準を超え、転退学者数の割合についても減少をしている。来年度も今まで以上に生徒にとって分かりやすい手立てとなるよう、基礎補充や追認指導などの学習システムを整備したい。
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3		読書活動の推進 ICT活用の推進	生徒一人あたりの貸出冊数 ICT使用率	昨年度比増 昨年度比増	3	3	学習する雰囲気の肯定率は64%となり基準は超えたが、生活面などに課題のある生徒は多い。来年度はICT活用をさらに推進することで個別最適な学びを充実させ、「授業が分からない」を減らしたい。
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	高校生としてふさわしい態度や行動を身につけさせる。	生活満足度調査(Q12)の肯定率の平均	肯定率75%以上 強い肯定率35%以上	2		高校生としてふさわしい服装についての啓発活動(担任への資料提供、生徒会活動、教室掲示等) (北キャンパス)皿スケープ指導を用いた指導 生活規律指導を用いた指導	実施回数 1学期と3学期を比較した増減 (北キャンパス)第2クールと第5クールを比較した増減 (南キャンパス)遅刻の回数	10回 10%減 10%減 昨年度より20%減	2	2	生活満足度調査Q12の肯定率は78%と高い水準であった。しかしエスケープ指導と生活規律指導は継続的に行ったものの、未入力や指導の徹底ができず、減少していなかった。来年度以降、指導の方法から見直す必要がある。
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率75%以上 強い肯定率35%以上	2		部活動加入を促進 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動、部長会の開催	12月時点での部活動加入率を昨年度より5%増加 発行回数 実施回数	37% 10回 3回	3	3	部活動の加入率は43%と増加している。しかし依然、新型コロナウイルス感染症対策の観点から行っていない状況なので開催できなかった。
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度調査「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率	肯定率82%	3		進路情報の提供 進路指導対策会議の実施 ホームページ記事の更新	生徒向け「進路だより」の発行回数 対策会議の実施回数 記事の更新回数	3回以上 2回以上 35回以上	2	3	重点目標である進路情報の提供に関する肯定率が87%(北85%、南91%)であった。方策1・3については、積極的な情報提供を行った。方策2については、学年(3年生)としては実施が1回であったが、各担任との連携を図りながら、生徒への細やかな指導を行うことができた。
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート17「教室や廊下、下駄箱はきれいに清掃されていますか」の肯定率	72%	3		生徒会、安全美化委員会、保健委員会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。 「ほげんだより」に環境美化についての呼びかけを掲載する。	呼びかけの回数 掲載の回数	2回 1回	3	3	環境美化意識を高める取り組みを行った結果、基準を上回る73%の肯定率となった。次年度も環境美化意識を高める取り組みを継続して実施していきたい。
	保健管理	健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート16「本校は、生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか」の肯定率	75%	3		「ほげんだより」や「スクールカウンセラーだより」で心身の健康管理について取り上げる。	掲載の回数	3回	3	3	ほげんだよりやスクールカウンセラーだよりの掲載や啓蒙により、基準を上回る79%の肯定率となった。次年度も心身の健康管理について発信していきたい。
第1学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立と維持	日々の学校生活及び授業を大切にすることを基本的生活習慣の確立を図り、それを維持する。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	2		日々のSHRにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。 主に総探を活用し、生徒が自分の課題に応じて学びあいをする時間を設ける。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 学習会の実施回数	週3回 年間3回 年間10回	3	3	SHRにおける生活指導や電話を含めた生徒・保護者との面談については、連絡を密にし、またその内容を学年や他分掌と共有することができた。総探についてはマナトレを中心に用い、基礎学力の定着を図った。次年度以降は適宜テーマを設定した内容の検討をしたい。
第2学年部	進路指導	進路意識の向上	進路保障に向けた指導を検討・改善し、進路希望未決定者を減らす。	学年末進路希望未決定者数	20名以下	3		生徒や社会の状況やニーズを捉え、時宜を得た声かけや指導を行う。 きめ細やかな進路情報を提供し、将来への考えを深める機会を増やす。 将来を見据え自己実現を果たすために学習するという雰囲気高める。 両キャンパス間を含めて学年の連携を密にし、生徒の情報を共有する。	面談実施回数 進路学習実施回数 「8学習する雰囲気」肯定率 情報の共有頻度	3回 5回 70% 週1回	3	3	進路意識の高まりとともに、日々の学習にも態度改たに引き合うとする生徒が多く見られる。日々変化する社会の状況やニーズを踏まえながら時宜を得た指導が出来るよう、引き続き分掌内外の連携を深めたい。
第3学年部	進路指導・生活指導	卒業・進路決定	規律ある学校生活を通じて、卒業、進路決定につなげる。	卒業・進路決定者の割合	卒業95%以上、進路決定90%以上	2		出席、授業態度、課題提出、考査前学習などの充実に向け、教科、関係分掌、保護者との連携を密にし、情報を共有する。 進路実現に向け、ガイダンスや進路別学習会、就職セミナー、面接指導を南北キャンパスと足並みをそろえて計画的に実施する。 生徒の普段の様子や問題行動の未然防止を図る。	課題のある生徒に対して必要に応じて学年、関係分掌、保護者を交えての面談 定期的な進捗状況の確認と進捗に応じた計画修正の実施 朝の立番及び授業・昼休みの校内巡回	必要に応じて実施 3 原則毎日	3	2	後半戦に入り、専門学校、就職など内定者が増えるにつれ、例年同様生活面がだらしなくなる生徒が増えた。 進路関係については、1年を通じて進路指導など良好な関係で進路指導ができたと思う。 生徒指導面においては、たびたび悪ふざけの延長と思えるイタズラや校内所で喫煙行為があった。特に一部の男子生徒を最後まで落ち着かせることができなかった。
事務部	施設設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実へ努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件	3		校舎内外の日常点検を実施する。 教職員から施設設備の異常報告を受けた際に、速やかに対応策を検討する。 改修等を必要とする案件を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡視の週当たり実施回数 対応策の決定、改善完了の報告 報告・依頼の時期	1回 報告毎 案件毎	3	3	長年の懸案事項であったカーテンの更新を行うなど、教育環境の改善に向けて実践した。
	組織・運営	事務処理	就修学保障、進路保障に係り、生徒保護者に対して修学援護制度に関する案内や事務処理を適切に行う。	就学援護制度についての周知徹底	制度通知の都度	3		生徒保護者向けの案内や、手続きの進捗状況を北南の事務部内で共有し連携を図る。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	配付資料、校内締切日等の調整、確認 配布依頼の際に、関係資料の説明及び周知を適切に行う。	案内毎 配布毎	3	3	南北で調整が必要な案件について相互連絡・相互確認を徹底し、迅速かつ適正な処理に努めた。
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科生に必要な主体的に学ぶ姿勢を涵養し、自己や環境に対する肯定感を高める	生徒満足度アンケート「本校に入学して満足していますか」の肯定率	85%	3		教室及び机の周囲の整理整頓により学習環境を整え、必要に応じて改善を促す。 社会的自立心と主体的に学ぶ姿勢を向上させるよう働きかける。 授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業準備を徹底する。	各教室の巡回及び点検を行う 個別面談の実施回数 授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりしている」	週1回以上 2回以上 3.6以上	2	3	生徒満足度アンケート「本校に入学して満足していますか」の肯定率が88%、授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりしている」についてもほぼ目標を達成した。次年度も継続した安心して学べる環境づくりが必要である。

	分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
				「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたとみなすか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末	
	国語科(北)	学習指導	学力の向上	授業に意欲的に参加出来るようにし、学力の向上させ、それを実感させる。	授業アンケートQ6、11、12の平均値	3.5	2	毎回の授業で、授業内容の理解度を確認する活動を行い、それを評価する。 各単元につき1回以上の授業内容を踏まえた提出課題を課し、それを評価する。 家庭での学習習慣の定着のため、計画的に小テストを実施し、その振り返りを行う。	実施率 実施回数 実施率	80% 単元に1回以上 90%	3 2 2 3 3 3	2学期の授業アンケートでは1学期のもの比べ、Q6(学力・技術の伸長を感じる)の項目が約0.2ポイント向上し、3.22となったが、目標としていた3.5には届かなかった。来年度以降は、見える形で日々評価をしていくことで生徒に学力のひびを実感させるとともに、授業への積極的な参加を促したい。
	地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	学習する雰囲気や醸成して基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q3、6、8の平均値	3.4	2	授業開始時に教科書、資料集、ノートなど必要物を確認する。 考查ごとに学習内容の振り返りを行う。 学期ごとに他教科も含めて授業見学と意見交流を行う。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 2回	3 3 3 3 3 2	授業アンケートの結果は平均値が3.2であり、目標に及ばなかった。来年度は個々の生徒やクラス状況に応じた適切な指導方法の検討をより活発におこない、平均値の3.4到達を図る。
	数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ3「この授業は説明がわかりやすい」Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の平均値	3.3	3	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 意欲を高めるプリントや教材を作成し、演習をさせる。 「観点別評価」「ICT活用」についての教科内研修を実施する。	授業の取り組みの点検 プリント等利用の回数 教科内研修の実施	週3回 週1回 年3回	3 3 3 3 2 3	重点目標の評価指標の3の基準を満たしており、一定の成果があったと考えられる。年間通して、教科内で統一した評価方法を実践し、観点別評価実施に向けての足掛かりを作ることができた。
	理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	不振者数の減少	年度末成績不振者数が全生徒数の10%以下	3	生徒の学習内容の定着度をはかるために単元テストを行う。 実物を手にとつての観察や実験を実施する。 観点別評価に関する報告会を設け、評価の在り方について検討する。 授業・受け持ち生徒に関する報告・検討会を設ける。	確認テストの実施回数 実験・観察の実施回数 報告・検討会実施回数 報告・検討会年間実施回数	各科目2回以上/学期 各講座毎約3回 2回以上/考查 年間20回	3 3 3 3 3 3 3 3	感染症蔓延の状況を受け、実験は行えなかったが、代替措置として動画鑑賞や演示実験、画像を用いて臨機応変に生徒らの理解を深めるための手立てを施した。特に計算を要する分野における基礎学力の向上が見込まれなかったため、さらなる基礎部分の復習およびかみ砕いた説明等が必要であることが判明した。
	保健体育科(北)	授業	学習意欲向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.5	3	ベル着・集団行動を徹底させる。授業でのルールを遵守させる。ルールやマナーを守る意識を向上させる。 健康の保持増進につながる基礎体力向上を目指す。 授業に意欲的・積極的に参加する意識向上を養う。	体育・保健ともに授業開始1分前に授業準備をして集合完了の割合。 トレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合。 体育・保健ともに成績不振・欠席過多による単位不認定者。	60% 60% 30人以下	2 3 2 3 2 3	体育・保健とも授業開始時までに集合・整列し、意識を持って授業に参加する様子が見られた。また、持久走やトレーニングにおいて、初めに比べて記録が伸び、体力向上の効果が見られた。
	芸術科(北)	授業	授業の取り組み状況	授業規律を確保し、諸活動に真剣に取り組む姿勢の定着を図る	授業アンケートの項目7,8,10,11の全講座平均値	3.5	2	授業開始チャイムの前からベル着やひきかけ、忘れ物の確認や私語・居眠り・活動状況について常に指導する。 取り組み課題について、作品や演奏でより良い表現を目指して粘り強く努力するように指導する。 日頃の成果を発表する場を設定することで、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	授業規律確保のための声かけの状況 各生徒の活動状況に応じた指導の割合 作品や演奏を発表し鑑賞する場面の設定(講座クラス内での発表会を含む)	常時 80% 全講座、年に1回以上	3 3 3 3 2 3	授業アンケートで取り組み姿勢についての問いの講座平均値が目標にわずかに届かなかった。自身についての評価は高いが講座全体についての評価は低いというパターンが目立つ。まずは、ひとりひとりが集中して表現活動に取り組むということが、次年度以降も大きな課題であると考ええる。
	英語科(北)	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にする意識を育て、家庭学習習慣の確立及び基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6、Q10～12の平均値	3.3	2	小テストや授業の振り返りシート等を実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 課題をこまめに提出させて点検を行い、取り組み状況を確認すると共に、不十分な生徒は指導する。 授業内演習や表現活動を実施し、生徒が主体的に取り組む時間を確保する。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	10回以上 10回以上 1回以上	3 3 2 3 3 2	授業アンケートの結果からは、「授業の準備や取り組み方」については目標を概ね達成できたが、「学力の伸長」については生徒に実感を持たせるまで指導をしきれなかった部分がある。今後も生徒の実情に応じて、教科全体で必要な指導方法を検討していきたい。
	家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	授業に前向きに取り組ませ、今後の自分の生活を改善する方法を考えさせる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている。」の平均値	3.3	3	興味関心を高め、内容の理解度を高めるために、視聴覚教材を効果的に使用する。 授業プリントやノートを点検し、生徒の理解度を確認する。 授業内で考える場面を設定し、課題に取り組ませる。	ICT機器の使用割合 授業プリントやノートの点検回数 考える課題の設定割合	90% 2,3年：毎回1回、5回 80%	3 3 2 3 2 2	年間を通して、効果的にICT機器を使用することができた。来年度からの評価の観点も活用しながら、授業内容と自分の生活の関わりについて考える課題を、生徒にとっても教員にとってもわかりやすく設定していきたい。
	情報科(北)	授業	授業に対する取組状況	前向きに授業に取り組む、情報社会で生きていくための知識と技術を習得させる。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。 課題・授業プリントの提出を徹底する。 確認テストを行う。	生徒自身の授業準備完了率 提出状況 学期毎の実施回数	90% 80% 2回	3 3 2 3 2 2	重点目標の評価基準は到達できたが、3学期になり例年通り欠席や遅刻が非常に多くなった。課題を授業内に終わらせることができず補習を実施することもあったが、概ね課題をやり切って終えることができた。
	商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得。	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	生徒が、主体的に学びを深める取組を入れる。 毎時の授業の最後等に、学習の振り返りができる時間を設定する。 資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	各授業での年間実施回数 各授業での実施率 ビジネス系検定試験の受験者数	2回以上 80%以上 20人以上	3 3 2 3 2 3	今年度の授業アンケートによる「学力や技術が伸びた」の評価は、3.2で目標を達成した。主体的な学びとして、企画実習や調べ学習等を授業に取り入れた。また学びに対する意欲や達成感を高めるために、学びの記録を実施した。ほぼ100%実施できた科目もあれば、30%のものもあった。次年度は、しっかりと取り組みたい。今年度1年間の資格取得率は、25名であった。コロナ禍であったが目標を達成することができた。
	国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	積極的に学習する雰囲気作りに努め、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ7～Q12の平均値	3.4	3	定期調査毎にノートを回収し点検する。 授業外での学習習慣の定着を図り、小テストを行う。 ICT機器を活用し、授業内容への興味関心を促す。	点検回数 小テスト回数 機器使用回数	5回 年間10回以上 単元毎に1回	2 2 2 2 2 3	授業アンケートQ7～Q12の平均値は3.44。調査毎のノート回収点検は概ねできた。小テストに関しては、国語総合で漢字テストを15回程、現代文で10回程実施できたが、古典などにおいてはほとんど行えなかった。ICT機器に関しては、画像や動画を活用して、生徒の理解を促す取組が一定できた。
	地歴・公民科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q1～Q12の平均値	3.3	3	授業中にノードを取らせる。また、学習項目毎にまとめ・感想を記入させる。定期的に点検をし、加点の対象とする。 授業開始時に、教科書・ノートなど必要物を確認する。 ICT機器を活用し、授業への興味関心を促す。	実施回数 年間実施率 機器の使用回数	5回 95% 単元毎に1回	2 2 3 3 3 3	授業アンケートでは平均値が<3の基準>を上回り、一定の成果は出せたと考える。今後は項目毎のまとめを更にしっかりと行うことで、生徒の理解を確実なものとし、学習の充実を図っていく。
	数学科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4	3	定期的な課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をし、授業に取り組む態度を身につけさせる。	実施割合 実施割合 実施割合	70% 80%	3 3 3 3	週末に課題を課すなど家庭学習習慣の定着を図ることができた。授業アンケートQ10についても3.5以上であった。
		検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5名	3	数学検定への受験を呼びかけ資格に対する意識などを意識させる。 数学検定に向けた補習を行う。	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	3 3 3 3	2月の実施は受験希望者が少なく実施ができなかったが、全体をおとして授業内での呼びかけなど生徒の興味や関心を引き出すことができた。8月と2月の両方で検定試験が実施できるよう、受験希望者を増やしていくことが課題である。
	理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート項目「この授業は楽しみ」の評価の平均値	3.2	3	各生徒の学習状況を把握するため定期調査毎にノート点検。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 成績不振者への補充実施	定期調査毎に提出 定期調査毎に実施	3 3 3 3	2学期の授業評価アンケート項目「この授業は楽しみ」の結果は3.2を下回る学年が一つあったが平均値は3.24であった。今後も授業内容の工夫を行い、学習に取り組む姿勢を高めていきたい。
	保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとっている。」の平均値	3.8	2	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業ノートを期日内に提出する。	5分前・3分前・1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度 提出率を上げる。	90% 80%	2 2 2 3	授業アンケートQ10の平均値は全体平均を上回っているが基準には到達できなかった。2年生は早めに集合し授業の準備に取り組んでいるが、1年生については基準に到達できなかった。授業ノートについては一部生徒に課題はあるものの基準を達成している。
	芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケート7,8,9の平均値	3.1	3	必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるよう指導する。 私語・居眠り・活動状況等について常に指導し、授業規律を確保する。	確認割合 生徒の活動状況に応じた指導の割合 授業規律の確保のための声掛け割合	90% 90% 90%	3 3 3 3 3 3	授業評価アンケート7,8,9の平均値は3.60であった。意欲的に取り組んでいる生徒が多く、意欲に欠ける生徒については担任とも連携しながら個別に対応することで授業に積極的に取り組むことができていた。
	英語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にする意識を育て、基礎学力を向上させる	授業評価アンケートQ7～12の平均値	3.5	3	ICT機器を活用した授業の実施 小テストを実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 表現活動を実施し、生徒の主体的な学びを促す。	実施割合 各学期の実施回数 各学期の実施回数	70% 5回以上 2回以上	3 3 3 3 3 3	授業評価アンケート上記項目の平均値が3.59と目標数値をわずかに上回った。来年度も生徒の学習状況などに応じた目標を設定し、達成できるように努めたい。
	家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上をはかる。	授業評価アンケート5,6の項目の平均値	3.1	3	実践的・体験的な授業の実施 ICT機器を活用した授業の実施 授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実践的・体験的な授業割合 実施割合 実施割合	60% 80% 60%	3 3 3 3 3 3	授業評価アンケート5,6の項目の平均値は3.41と基準を達成することができた。ICT機器を活用することで生徒が活動する時間を多くとることができ、その結果、学力が伸長したと感じる生徒がいたと思われる。
	情報科(南)	学習指導	学習意欲の向上	主体的に授業に参加し自ら学ぶ態度、姿勢を育てる	授業アンケートQ12「私は授業に積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.3	3	授業開始時にはコンピュータ起動ができているか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	指導割合 指導割合	80% 80%	2 3 3 3	自主的に課題に取り組むなど意欲的にコンピュータの起動をする生徒が見られた。課題の取り組み状況を確認しながら机間指導に活かすことができた。今後の課題としては、いかに早く自ら取り組み意欲を引き出すことが必要だと考えている。
	福祉科	学習指導	基礎学力および、専門的な知識や技術の定着	授業規律を確立し、福祉に関する専門的な知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとっている」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体の平均値	3.3	3	授業に集中できるように、規律ある授業を行う。(姿勢を正し、私語を許さない) ICT機器を活用した授業を行い、授業のUD化の推進をはかる。 生徒の様子や授業内容について情報交換を行い、授業改善に役立てる。	授業アンケートQ8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体平均値 全ての科目で年間実施回数 教科会議の実施回数	3.3 3回以上 月2回以上	3 3 3 3 3 3	授業アンケートQ7、Q8の平均値が3、4と上回った。しかし「授業が楽しみである」割合が低く(コロナ禍での授業内容の制約により)、学習内容の見直しやICTの活用等の工夫が必要である。